

足立正馨 あだち まさひろ 舊爲取藩士、歌人。天保十一年九月二十日因藩國生肌、  
明治四十年四月十九日歿（八四—一九七）。字與卿、通稱八藏。號克己  
齋、古狸窟、天瀑、樂石山人、狸窟、祿々山房、襟堂、老狸、集石山  
人、鼓腹庵等。文久元年芳野金陵に節事。翌年國事劇旋方、二年京都  
本圀寺の重臣暗殺に加はる。慶應三年幽閉中、脱出して長州藩で活動  
し、大村益次郎、西田重學を學ぶ。維新後刑部中判事、伊奈縣大參事、  
神祇省權大録、内務省少書官、諸陵頭、圖書頭等を歴任した。明治二  
十九年男爵。

編書、加納諸平著『石園詠草拾遺』（飯田正平共編、明治十八年四月  
十八日出版）・石園藏版、吉川半七發賣）刊。